

# みちいぶ

第130号

人権・同和問題啓発広報  
人権同和政策課  
☎ 22-7506  
同和教育・啓発推進会議

## 出雲市同和教育研究指定事業の取組

市では、市内の地区同和教育推進協議会を指定し、当該地区内の幼稚園、小・中学校、保育園(所)、コミュニティセンター等が連携を図りながら、「真に明るく住みよい民主的な社会の創造」を目指した地域ぐるみの同和教育を推進できるように、同和教育研究指定事業を実施しています。

平成25・26年度に指定した地域の取組を紹介します。

### ○国富地区

「人権を尊重する、明るく住みよい国富に!!」  
「ささえあい」「ふれあい」のあるまちづくり

国富地区では研究指定事業の前年に20歳以上の全住民を対象に行った「人権問題に関する意識調査」の結果が同和教育解決に消極的な回答や無回答が多かったことから、地域住民が人権・同和教育に関心を持ち、今日的課題であることを認識し、その解決を自分の課題としてとらえることができるよう積極的な啓発活動を進めました。

研究指定1年が経過するときや、2年目の地域研修会するときなど節目においてアンケートを取り、住民の

意識の変化を把握しながら人権・同和教育の推進に取り組むとともに、コミュニティセンターに横断幕や各自治会にのぼり旗を設置するなど、啓発活動を展開しました。

昨年11月の発表会では、国富小学校の公開授業、そして2年間の取組の発表、その後、奈良県西光寺住職の清原隆宣さんを講師に迎えて記念講演(演題「あなたに光を」)を行い、約400人の参加者にとって貴重な学習の場となりました。



▲清原隆宣さんは、社会の間違ったものさしから差別が起こり、このものさしをなくし、自分の判断基準をしっかりと持つことの大切さを話され、「今日この講演で、気づいたことや感じたことを、実際の暮らしの場に生かすことではじめて、差別がなくなる」と参加者に呼びかけられました。



▲地域での研修会を、1年目に町内単位21会場で講演による研修、2年目には大字単位の5会場ビデオフォーラムによる研修を行い、参加者からは「研修は研究指定の2年間で終わることなく継続が必要ではないでしょうか」など積極的な意見が出ました。



▲「人の世に熱あれ、人間に光あれ」と高らかに人間の尊厳と平等をうたい上げて、1992年3月3日に創立された「全国水平社」発祥の地である奈良県御所市の『水平社博物館』に視察に訪れ、平和と人権の確立をめざす部落解放運動の原点に立ちその歴史から差別の現実を学び研修を深めることができました。

国富地区人権・同和教育推進協議会  
高橋昭宣会長から

国富地区では「人権を尊重する、明るく住みよい国富に!!」「ささえあい」「ふれあい」のあるまちづくりという活動テーマでスタートしました。事前の地区全住民へのアンケート結果は、人権・同和教育に消極的な回答や無回答が多くありました。人権・同和教育に関心を持っていたため、積極的な啓発活動が不可欠と思われました。地区住民の皆様の参画、御協力に感謝申し上げます。

この2年間をふり返りますと、1年目より2年目の方が、関心が深まり意識が変わってきていることが、アンケート結果にあらわれております。

人権・同和教育への正しい理解と感性を身につけ、日々の生活態度が変わり、知識から行動力となり「明るく住みよい国富」にするには指定事業を契機に今後、地道な啓発活動、学びあいを続けていかねばならないと思います。

## ○遙堪地区

一人ひとりの人権が尊重されるまち 遙堪  
 『学びを行動に』 拡げよう 思いやる心の大切さ

遙堪地区では研究指定以前から町内会が輪番制で行うコミュニティセンター清掃後の研修会に取り組んでおり、研修会に出席したことがある人が67%と約2/3の住民が研修会に参加している地域です。

この研修会を軸として、同和問題をはじめ人権諸課題の解決に向けて、正しい知識と日常生活の中で生かされるような人権感覚を身につけ、行動することの大切さを意識化するために、専門部を中心に、特に広報活動に力を入れて取り組みました。

昨年10月の発表会では、遙堪小学校の公開授業、遙堪幼稚園の公開保育、そして2年間の取組の発表、その後、落語家林家卯三郎さんを講師に迎えて記念講演（演題「ウサプロウのゆかいな人権問題」動物の親子のふれあいから学ぶ人権問題）を行い約450名の参加者にとって貴重な学習の場となりました。



▲林家卯三郎さんは、落語家になる前に獣医師をしていた頃、動物と触れ合った体験をもとに、「生命を尊ぶ心」、「思いやりの心」が大切なことを「人権落語」を交えながら分かりやすく話され、参加者は時折笑いながら、興味深く聞き入りました。



▲毎月町内会が行う研修会を継続しながら、一方、自治会単位の5会場で現代社会に持ち越されている同和問題に関するDVDの視聴や講話、意見交換を行い、参加者からは「人権感覚を育む土台づくり」の必要性についての意見などが多く出ました。



▲『岡山市人権啓発センター』ならびに「渋染一揆」が起こった当時の貴重な資料等が展示してある『渋染一揆資料館』を視察し、理不尽な御触書により差別を受け、この差別を後世に残さないため、御触書の撤廃へとみんなが一致団結していった流れを学ぶことができ、一人の人間としての尊厳や、命の大切さなどを改めて実感し、「人権」の重要さを再認識しました。

## 遙堪地区同和教育推進協議会

足立幹男会長から

ここ遙堪地区では、当該事業の全体活動テーマを「一人ひとりの人権が尊重されるまち 遙堪」を行動に「学びを行動に」拡げよう 思いやる心の大切さ」と定め、関係団体、幼稚園、小学校、コミュニティセンター等と濃密的な連携のもとに取り組みました。

主な取組内容は、意識調査の実施、広報誌「わかば通信」の発行等の広報活動、各種の人権啓発研修です。研修事業は、ブロック別研修、町内研修（行政体の合併以前から実施）、差別の現実に学ぶ県内外の視察研修等に地区人口の過半となる1,220名が参加。この声のキャッチボールなどは、人権意識について理解を深め、人権を身近に引き寄せると同時に、人権問題解決への強い思いを持つことに繋がるものと考えています。

一方で、意識調査などの結果からみると、社会意識の同調傾向や人権感覚の希薄な部分が見受けられ、何かの契機に差別的対応とならないようにしなければなりません。事業の成果品である発表会資料は、地域の支援措置を得て全戸配布しました。

今後、指定事業の成果と課題を踏まえて、身近な暮らしの中につかり人権が根づくよう重点推進事項の実践について、引き続きみんなで考え、みんなで取組を進めてまいります。

## 平成26・27年度の同和教育研究指定事業の発表会

- 上津地区同和教育推進協議会  
 とき 11月7日(土) 主会場 上津小学校
- 鰐淵地区同和教育推進協議会  
 とき 12月5日(土) 主会場 鰐淵小学校

同和教育は、部落差別をはじめとするあらゆる差別をなくし、すべての人々の人権を尊重する取組です。今回紹介した研究指定を受けた地域だけでなく、研究指定を受けていない地域でも、さまざまな活動が行われています。皆さんも積極的に参加しましょう。